



若竹だより



【巻頭言】

遊びの本質

—学園のケイドロ遊び—

園長 野田大燈

気が付けば学園の傾斜面に新たな道が数本出来ている。ケイドロ遊びの傷跡です。

園生の大半が加わって行われるケイドロ遊びは壮観で、泥棒役の園生が逃げたり隠れたりするのに斜面を駆け上がったたり駆け下りたりし、その泥棒を追いかける警官役が加わって法面は確実に通路化しているのです。

園生のケイドロ遊びは学園の伝統的遊びと言えるかもしれませんが、先日は泥棒役が足を捻挫し、その翌日は警官役が転倒して背中に打撲傷を負いました。

それでも誰一人としてケイドロ遊びをやめる者はいません。それは決して嫌々参加しているのではないと云う左証だと思います。

そのことが園生達の体力と持久力を養い、仲間意識を育てていると思っています。

ケイドロ遊びをしている園生達の目がキラキラと輝いていて、傍を通っている私までタッチされて泥棒役にされてしまうのです。

町中の施設でケイドロ遊びは不可能でしょうが、瀬戸内海国立公園内の大自然に囲まれ春夏秋冬をそのまま肌身に感じられる若竹学園だからこそこの遊びでしょう。

とは言っても現代っ子の園生ですのでケイドロ遊びの毎日ではありません。

学園に来るまでは他の子供たちがそうであるようにゲームにも夢中になります。

園生を静かに過ごさせるにはゲームの時間を与えれば職員は楽です。

最近は何も聞かなくなりましたが一時期は「ファミコンシンドローム」と言う言葉が取り沙汰されていて、現実にこの症状故に入所したケースもありました。

でも時折ファミコンをしている園生の傍に行くと熱中の余りゲームの主人公と同一化して「園長！わかるやろ、僕のこの気持が…」とテンション高く訴える者もいますのでゲームの後遺症は大なり小なり引きずっているようです。

勿論子どもたちの遊びは多種多様で、折り紙や手芸など1人で遊べるものから将棋やオセロなど対で行うもの、そしてドッジボール・サッカー・テニスなど幅広いものです。

遊びは時代と置かれた環境、そして文化程度によって変化して行っていると思いますが、偏って屈折した人間形成に繋がる遊びは避けたいものです。

ケイドロ遊び、と言う名称には少し抵抗がありますが、身体と感情を最大限に発散して遊んだ体験を、成長の後にも忘れずに持ち続けて欲しいと思います。

今日も園生達の甲高い声と笑い声が四方の山々にこだましています。

—一—

お花見

4 月 1 日にお花見に行き、満開の桜の下で
ご飯を食べてきました。

桜がとても綺麗でした。そこでご飯も食べ
てお腹いっぱいになりました。楽しかったで
す。(小 6 男児)



4 月 1 日
花見に行き
ました。悪
天候で行け
ないのかも
と心配して
いましたが、
なんとかも

ってくれていくことが出来ました。現地
の桜は見事に満開でとても綺麗でした。
そんな桜の下で弁当をたべていつもよ
りおいしく感じたような気がしました。
その後体育館と釣りにも行き思いっき
り体を動かしました。新しい年度の良
スタートをきれたと思います。(中 3 男)

凧揚げ

先日、子ども達と凧揚げをしました。は
じめ凧は園庭で飛ばしていたのですが、子
ども達があまりにも飛ばすのが上手で、
園庭では狭すぎていました。そこで急遽、
五色台少年

自然センターに行くことにしました。広
い場所で高く飛ばせ、子ども達も大喜
びでした。



4 月 8 日五色台
の少年自然の家
で凧揚げをし
ました。僕は凧
揚げがけっこう上

がったり下がったりしました。
でも友達がけっこう上がった凧を
僕が受け取りそして風の力がすご
いから手を放してしまいました。

(中 1 男)

よもぎ餅作り



4 月 5 日(日)に学園
の中に自生しているよ
もぎを使ってよもぎ餅
作りをしました。毎日
遊んでいる場所に生え

ている植物がおやつになるとは思ってい
なかつた子もいて、不思議そうによも
ぎを摘んでいました。



摘んできたよもぎは
下準備をして、蒸した
もち米と一緒につま
ました。ぺったんぺた
んと手をつくとなかなか餅つき機
のようなきれいなおもちにはなり
ませんでした。よもぎの風味も
十分した美味しいお餅が出来まし
た。「また作ろう!」と遊んでい
る時によもぎ



を見つけて取ってくる
子もおり、良い思い出
が出来たようです。旬
の味覚を味わえる行事
をこれからもしてい
こうと思います。

若竹学級だより

2015 年度 いいスタートが切れました

新年度が始まり 1 ヶ月が経過しました。本年度の「若竹丸」は、中学生 13 名、小学生 7 名、学校職員 6 名の計 26 名の乗員で、出航しました。途中いくつかの港を経由し、さまざまな自然・文化・人にふれながら子どもたちは大きく成長していくものと思われま

本年度の重点

1. 子どもに寄り添った支援・指導

入園に至った子どもの背景を理解し、個に応じた支援・指導を行います。

2. 基礎学力の向上

分かる授業を展開し、学習意欲の喚起をはかります。特に、「読み・書き・計算」の基礎学力の充実を図ります。



3. 自尊感情の育成

さまざまな学習活動、生活場面において子どもたちのよさや伸びを見つけ、ほめます。また、子どもたちが自らを見つめ、目標をもって取り組めるようにします。

4. 体験活動の重視

四季折々の野外活動、特技や関心を生かしたクラブ活動、校外施設での活動(老人ホーム入所者の方々との交流など)を設定し、子どもたちが生き生きと活動する機会を増やします。


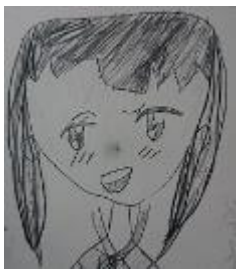





5. 進路保障の充実

原籍校との連携を密にし、上級学校への進学を見据えた進路指導を実施します。

学校職員の紹介

① 氏名, ② 担当, ③ 趣味, ④ 座右の銘

① 植松 繁 	① 石尾 理子 
② 中 3 担任 (数学)	② 小 3, 5 担任
③ トワイライト EXP に乗ること	③ ガーデニング ウォーキング
④ 人生は芸術である	④ 為せば成る
① 河野 靖貴 	① 川崎 浩文 
② 中 2 担任 (英語)	② 小 6 担任
③ 走ること	③ ゴルフ
④ 努力	④ 一生青春
① 大西 弘訓 	① 大恵 淑恵 
② 中 1 担任 (理科)	② 学習支援 (小中)
③ 映画鑑賞	③ 嵐
④ 初志貫徹	④ 一期一会

青峰学級入学式



つい最近まで小学生だった子ども達が中学生になり、意識しているのか普段の生活が変わりました。職員の声掛けもないのに自室で自主的に宿題をしている姿を見てとても感心しています。その他に何をするにも一生懸命に取り組んでいるように感じられます。目つきも変わり成長したように思えます。これからのさらなる成長が楽しみです。

4月からよろしくおねがいします

平野 佑馬

子ども達としっかり向き合っていきたいと思います。

田窪 識

子どもが安心・安全で過ごせるよう努めていきたいと思います。宜しくお願いします。

田部 侑梨奈

子ども達が安心して話のできる職員になれるように関わっていきたいと思います。

道久 和美

子どもと職員の皆さんの健康管理のお手伝いをさせて頂きたいと思います。宜しくお願い致します。



- 6 日 始業式
- 9 日 入学式
- 12 日 図書館
- 15 日 買物学習
- 29 日 図書館

在籍人数

平成 27 年 4 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	0	5	5
	中学生	5	3	8
	その他	0	0	0
	計	5	8	13
女 子	小学生	2	0	2
	中学生	4	1	5
	その他	0	0	0
	計	6	1	7
合計		11	9	20

編集後記

最近、子ども達はケイドロに夢中です。職員も一緒になって駆け回っています。毎日元気な子ども達に負けないよう頑張っています。 児童指導員 青木 亨

第 255 号発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160
ホームページ <http://4on.or.jp/>

(1 月 1 日より HP が変更しています)

Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈